

科目・コース（ユニット）名： 漢方医学Ⅱ【医学3】
英語名称：Kampo medicine ②

【担当責任者】 田原英一（漢方医学）

分野担当責任者（漢方医学）

湯液：田原英一 鍼灸：鈴木雅雄 生薬：秋葉秀一郎

【連絡先】 湯液：田原英一 e-tahara@fmu.ac.jp

鍼灸：鈴木雅雄 masuzuki@fmu.ac.jp

【開講年次】 3年,【学期】後期【必修／選択】必修,

【授業形態】 講義／実習

【概要】

我が国の臨床医は80-90%が漢方製剤の処方経験があるとされ、また鍼灸を臨床現場で活用している医師や施設も多い。漢方（湯液と鍼灸）における具体的な診察と治療の方法、湯液で用いられる生薬の基礎、鍼灸治療のメカニズムについて学び、その知識や技量を臨床実習さらに実地臨床で活かせる基盤を作る。

【学習目標】

1. 六病位における主要な方剤について、証に基づいた適応を理解している。
2. 気血水の病態に対応する主要な方剤について、証に基づいた適応を理解している。
3. 鍼灸診療において証に基づいた治療とメカニズムについて理解している。
4. 湯液治療で用いる生薬を中心とした学問である本草学について、具体的な例を挙げて説明できる。
5. 主な生薬の作用と生薬の副作用・使用上特に注意を要する点について理解している。

【教科書】

1. はじめての漢方診療 ノート（第2版）、三瀧忠道、医学書院
湯液臨床の要点を収載。臨床実習でも使用し、卒前から臨床実地まで活用できる。
2. 基本がわかる漢方医学講義、日本漢方医学教育協議会、羊土社
日本の全医学部の漢方担当教員による標準教科書。湯液と鍼灸の要点を記載。

【参考書】

1. はじめての漢方診療 十五話（第2版）、三瀧忠道、医学書院
「はじめての漢方診療ノート（第2版）」の姉妹版で、丁寧に解説している。
2. 学生のための漢方医学テキスト、日本東洋医学会
3. 症例から学ぶ和漢診療学、寺澤捷年、医学書院
4. 漢方概論、藤平健・小倉重成、創元社
5. 漢方 294 処方 生薬解説、じほう

主要な漢方処方を構成する生薬について、成分や漢方医学的位置づけを解説。

6. 経絡・ツボの教科書、新星出版社

7. 鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス、医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

- ① 規定に基づき、原則として3分の2以上の出席を②筆記試験受験資格とする。
 - ② 筆記試験：学習目標に掲げた項目について、その習得度を確認する。
 - ・ 主要な漢方方剤について、四診所見に基づいて証を判定し、方剤を選択できる。
 - ・ 五行論と五臓について、概略を理解している。
 - ・ 鍼灸治療に必要な身体診察である舌診について概要を理解している。
 - ・ 講義内容に沿った証を用いた鍼灸治療の方法について選択できる。
 - ・ 刺鍼の基本的な手技が説明できる。
 - ・ 主な漢方薬・生薬の作用について、漢方と現代薬理学の両面から理解している。
 - ・ 漢方薬・生薬の副作用や特に注意を要する点を理解し、危険回避の方策を理解している。
- 試験は総点 60%以上、かつ湯液（本草を含む）・鍼灸領域で各 50%以上を合格とする。

【学習上の注意事項】

漢方医学はその成り立ちが現代医学とは一線を画すため、一般的に流布する先入観を持って学習に臨むことを避けるべきである。

【垂直的統合授業の実施内容】

具体的な湯液診療（漢方処方の適応・運用）を1-5回で学び、6回目にその基礎にある本草学（漢方薬学）を解説し、構成生薬の作用・副反応などを示す。鍼灸の作用機序などのサイエンス（7回目）と鍼灸診断の過程を学び（8回目）、実際の鍼手技についてシミュレーターを使って体験する（9回目）を学ぶ。

【水平的統合授業の実施内容】

湯液診療では内科学（総合）や、薬理学、臨床薬理学にも関連して説明する。
鍼灸では経穴（けいけつ）部位の解剖と物理刺激に対する神経生理学的働きを理解し、鍼灸刺激が中枢ではどのような反応を起こしているか説明を行う。また、この刺激の働きが臨床的にどのような意義を持っているか説明をする。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

漢方医学独特の証に基づき薬方を選択する方法を学び、臨床応用の基礎を作る。
鍼灸診療の理論と実技を取り入れ、臨床に応用できる基礎を身につける。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2026/11/4	水	4	(講) 主要処方とその運用 (1) 六病位の適応方剤と運用① 陽証 (1)	田原英一	
2	2026/11/4	水	5	(講) 主要処方とその運用 (2) 六病位の適応方剤と運用② 陽証 (2)	田原英一	
3	2026/11/4	水	6	(講) 主要処方とその運用 (3) 六病位の適応方剤と運用③ 陰証	田原英一	
4	2026/11/11	水	4	(講) 主要処方とその運用 (4) 気血水の異常からみた適応 方剤と運用①	畠田一司	
5	2026/11/11	水	5	(講) 主要処方とその運用 (5) 気血水の異常からみた適応 方剤と運用②	畠田一司	
6	2026/11/11	水	6	(講) 本草学 (漢方薬学) と生薬 の作用・副作用	秋葉秀一郎	
7	2026/11/18	水	4	(講) 鍼灸のサイエンス	粕谷大智	
8	2026/11/18	水	5	(講) 証を用いた鍼灸治療	鈴木雅雄	
9	2026/11/18	水	6	(講・実) 鍼治療の基本手技	加用拓己	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
田原英一	教授	会津医療センター漢方医学講座	
畝田一司	講師	会津医療センター漢方医学講座	
秋葉秀一郎	助教	会津医療センター漢方医学講座	
鈴木雅雄	教授	会津医療センター漢方医学講座	
加用拓己	助手	会津医療センター漢方医学講座	
粕谷大智	教授	新潟医療福祉大学	

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

1, 2, 3, 4, 5, 回は医師が担当

6, 7, 8, 9回は漢方薬剤師、鍼灸師（実務経験者）が担当